

令和 4 年度 武蔵野市地域自立支援協議会全体会（第 1 回）

## グループディスカッション ワークシート

グループ名: E

【テーマ】「武蔵野市における協議会の課題と目標  
～5 つの専門部会の活動報告を踏まえた今後の展望～」

### ワーク 1: 「各部会の活動報告を受けて」

- ・各部会の取り組みについて、もう少し詳しく聞けるとよかった。
- ・地域生活支援拠点部会の体験機能等は地域移行部会と重なる部分があるのではと感じた。他の部会と協力して意見交換ができるとよい。
- ・差別解消部会での取り組みは、コロナ禍で運転手と直接会えない中で知恵を絞っており、印象的だった。
- ・地域生活支援拠点部会のように、個別の事例を通じて提言に持っていくやり方もあると感じた。
- ・特にコロナ対応部会の冊子が分かり易いと感じた。それぞれの部会で 2 年間の形にできたところが素晴らしい。成果物の見せ方は大事だと思った。一定の成果物をだせると成果が伝わり易い一面もあると感じた。
- ・部会によっては労力使ったのではと感じることがあった。それぞれの部会がもう少し負担なくできるとよいのではないか。
- ・「心のバリアフリーハンドブック」の改訂等については差別解消部会と絡めて意見を出したり、意見の集約をしたかったが、タイミングを逃し上手く絡めなかった。各部会が他の部会と協力して取り組めるとよいと感じた。
- ・各部会の活動が繋がっていると感じた。市民を巻き込んで考えていけるとよいと感じた。課題や目標をいかに市民と共有していくかが重要だと感じた。
- ・地域移行部会のアンケートはどこでみれるのか。⇒「武蔵野市ホームページ 令和 4 年度 自立支援協議会第 3 回（令和 4 年 11 月 7 日）配布資料 資料 1」

### ワーク 2: 「今後の協議会活動に向けて（課題と目標）」

ワーク 1 を踏まえ、今後本協議会が取り組むべき課題と目標などを意見交換する

- ・2 年間かけテーマ設定ができたため、取り組み易かったように感じた。
- ・部会が地域課題を考える役割になっていくとよい。
- ・全体を見据えて考えていくことが重要。他の部会がどんなことをやっているのかをもう少し聞いたり把握できる場があるとよい。横断的に話せる場がもう少しあるとよいのではないか。
- ・コロナ禍前に比べて全体会が減ったが、支援者同士が顔の見える関係を築き、もう少し部会同士で連携出来るよう、全体会のような場が増えるといいのではないか。
- ・各部会が連携して相談できるとよいのではないか。例えば、地域移行部会で出た課題（アパート探しの大変さ等）は差別解消部会での市民啓発（ポスター啓発）等と絡めてやっていけると良いのではと感じた。差別解消部会がもう少し他の部会の一部門とリンクできると面白い部会になるのではと感じた。
- ・全ての部会の活動が繋がっていると感じている。一つ一つ掘り下げると深いテーマのこともあると感じた。各部会を統合し、やることを絞ってじっくり検討しても良いのではないか。

- ・以前あった相談支援部会がなくなり、相談支援の部門が弱くなったようにも感じる。部会の再編については、なぜこの部会を減らしたのか等理由も明確にすることが必要。
  - ・課題として出たことに継続的に取り組んでいくことも大事だが、新たな課題も拾っていかなくてはならない。今後、災害時等の体制等緊急時の体制づくりも検討が必要ではないか。
  - ・それぞれの部会員だけが頑張っても限界があるし負担も大きい。部会で話し合ったこと等は各職場で同業務に落とし込んでいったらいいのか悩んでいる。いかにどう還元していくのかは課題。
- ⇒月に一回の会議の場で部会の活動報告や、回覧等により共有。職場にもよるが普段の業務にどう生かすかを考えながら部会に出席していけるとよいとの話あり。
- ・当事者部会としては、人数が増えると良いと感じている。多くの人に活動を広げ仲間を増やしていきたい。当市の当事者部会は都内でも活発な会であり、ぜひ活かしていけると良い。